

「命短し恋せよ乙女」 ～マツオヒロミ×大正恋愛事件簿～



【画像1】マツオヒロミ画「ダンス」(初公開)

大正時代に活躍した作家の田村俊子をイメージした作品

明治末～大正時代は、世の中を賑わせた恋愛事件が頻発しました。

有名人の恋愛ゴシップに人々の関心が集まるのは現代も同じですが、当時は結婚に対する日本人の考え方が変化していた時代で、恋愛事件は単なるゴシップである以上に、女性の生き方や結婚制度に問題を投げかけるものでもありました。

恋のために世間の非難や嘲笑と闘い、最終的には幸福になった人もいれば、一方では自殺するなどの不幸な結末を迎えた人もいます。

いつの時代でも、恋愛は人生における大きな事件であり、一人の人間の幸・不幸を左右する大問題であることに変わりありません。

大正時代のさまざまな恋のいきさつは、現代人にとっても大変興味深いものであり、そこから学ぶことは多いと思います。

恋愛事件 1 田村俊子の場合



【画像2】田村俊子

結婚はしていましたがバイセクシャル的な傾向があって、若い女性崇拝者たちに取り巻かれていました。後に愛人を追ってカナダへ渡りました。

恋愛事件 2 竹久夢二 × 山田順子 の場合



【画像 3】山田順子

竹久夢二と山田順子（ゆきこ）の出会い

順子は最初の結婚によって3人の子供を得ましたが、夫の破産によって離婚し、小説家をめざすようになりました。大正13年、文壇の大御所・徳田秋聲に原稿を見せましたが評価されず、ある出版社社長の愛人となって、処女小説「流るるままに」を刊行。その本の装幀を竹久夢二に依頼したことから、二人の恋愛が始まりました。



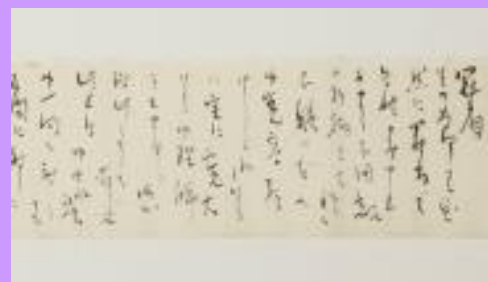
【画像 4】マツオヒロミ画「山田順子」

マツオヒロミによる山田順子のイメージ画（初公開）

マツオヒロミは、大正～昭和初期の女性風俗を現代風にリメイクしたイラストで人気を得ています。当時、恋愛事件のヒロインとなった女性たちの生き方もまた、現代に生きる女性たちの心の中で、リメイクされ、新たな命を得ることができるでしょう。大正の女性と現代女性を繋ぐツールとして、マツオヒロミのイラストを併せて展示いたします。

夢二が順子の兄（山田家当主）にあてた手紙「結婚いたしき心算」

竹久夢二は自伝小説「出帆」に順子との恋愛のいきさつを書きましたが、それは事実とは異なっていることが、最近わかってきました。夢二と順子は大正14年に順子の実家のある秋田県本荘を訪れ、二人が結婚するかのような印象を与えたものの、夢二にそのつもりはなく、迷惑だったと自伝に書いています。しかし、山田家には夢二からの婚儀の相談の手紙が残されており、夢二にも順子との結婚を望んだ時期のあったことがわかってきました。



【画像 5】竹久夢二手紙「結婚いたしき心算」大橋愛／撮影

お葉の失踪

お葉は竹久夢二のモデルで、恋人でもあった女性です。山田順子の出現によって、お葉は夢二の許を去りました。この事件で世間の不興を買ったことが、夢二人気凋落（ちょうらく）の一因になったと考えられています。本展では、マツオヒロミが描いたお葉を初公開します。



【画像 6】お葉

恋愛事件 3 松井須磨子 × 島村抱月 の場合



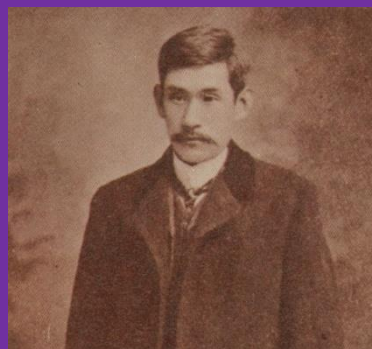
【画像 7】「サロメ」を演じる松井須磨子（小針侑起／所蔵写真）

松井須磨子は、大正7年に愛人・島村抱月がスペイン風邪で急死すると翌年首をつって後追い自殺し、世間に衝撃を与えました。



【画像 8】須磨子の後追い自殺を報じる『朝日新聞』1919年（大正8）1月6日

「私はやっぱり先生のところに行く」と遺書に書かれていました。



【画像 9】島村抱月



【画像 12】義江の遺品・マリア像 大橋愛／撮影

義江は病気のときに献身的に看病してくれたあきを「マリア様と思った」と書いています。最後まで手元に置いたこの大理石の像に、義江は別れたあきの面影を見ていたのかもしれませんが。

恋愛事件 4 藤原あき の場合



藤原あきは16歳で家の意向による結婚をしましたが、夫とは気があわず、歌手の藤原義江と恋仲になります。離婚請求を続けたあきは、正式に離婚した直後、義江を追って出航し「恋の船出、夫と愛児を捨ててミラノへ」と騒がれました。その後の義江は次々と海外公演を成功させて世界的な活躍を続け、あきが陰でそれを支えました。

【画像 10】義江との仲が噂になり始めた頃のあき 1923年（大正12）、27歳



【画像 11】1934年（昭和9）帰国した義江を東京駅に出迎えた長男・義昭とあき

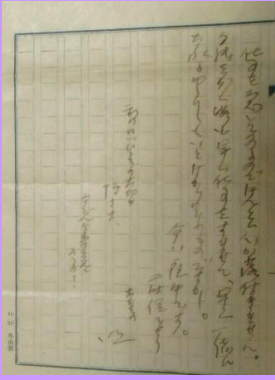
1934年には藤原歌劇団が設立され、あきは衣装制作や歌詞の翻訳を担当し、経済的に苦しい劇団の維持に死力を尽くしました。しかし義江の浮気が原因となり1953年に離婚。離婚後のあきは、編集者、タレント、国会議員として活躍しました。そんなあきの颯爽とした生き方には、現代女性も学ぶところが大きいのではないのでしょうか。義江はあきが亡くなった1967年に『我があき子抄』を出版しましたが、その中に「あき子に亡くなられてみて、あき子の前に恋人なく、あき子の後に連れ添える女はなさそうに思います。」と書きました。



【画像 13】義江の遺品・スプーン類 大橋愛／撮影

一本一本ネームが彫り込んであります。外国のホテル暮らしが長かった義江とあきの生活の一端をしるばせませす。

恋愛事件5 平塚らいてう×奥村博史 の場合



【画像14】
平塚らいてうの手紙

【初公開史料】平塚らいてうの手紙

「私のただひとりのたいせつな博さま」と宛名の書かれた手紙。(100年前の1917年と推定される)女権獲得の闘士というイメージとはうらはらに、実際のらいてうは物静かな女性であり、生涯夫を深く愛し続けました。二人は従来の封建的な結婚制度を拒否して結婚ではなく「共同生活」という形をとり、世間から「野合」と非難され、また博史(博から改名)が、らいてうより5歳若かったことから「若い燕」と揶揄されました。

展覧会の概要

展覧会名	「命みじかし恋せよ乙女」 ～マツオヒロミ×大正恋愛事件簿～
会場	弥生美術館
会期	2017年7月1日(土)～9月24日(日)
開館時間	午前10時～午後5時(最終入館:午後4時30分)
展示内容	マツオヒロミ作品・恋愛事件のヒロインの写真や遺品。 総数 約200点
住所・tel	〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3 03-3812-0012
休館	月曜日(ただし7/17(月祝)開、翌18(火)休、 8/14(月)臨時開館、9/18(月祝)開、翌19(火)休
料金	一般900円 大高生800円 中小生400円 *隣接する竹久夢二美術館と二館併せての料金。 (高島華宵の常設ルーム見学料金も含まれます)
交通	東京メトロ千代田線 根津駅 南北線 東大前駅 ともに徒歩7分 JR上野駅 公園口・しのばず口より徒歩20分 (東京大学 弥生門斜め前)
ギャラリートーク	7/16(日)、8/13(日)、9/17(日) いずれも午後2時から 担当学芸員が会場をご案内します。

- ◆ 姦通罪による投獄―北原白秋
- ◆ 恋愛なき心中事件―平塚らいてう
- ◆ 筑紫の女王、恋の出奔―白蓮
- ◆ 姪との禁じられた恋―島崎藤村
- ◆ サッポオのごとく―田村俊子
- ◆ 「魔女事件」「妻譲渡事件」―佐藤春夫
- ◆ 追うときも別れるときにも深く―藤原義江
- ◆ 友情の絆は色恋より強い―石井漢
- ◆ 「椿姫事件」そして「雪の国境越え」―岡田嘉子
- ◆ 歌姫の情熱―与謝野晶子
- ◆ 後追い自殺の衝撃―松井須磨子
- ◆ 私は誘惑していません―原阿佐緒
- ◆ 恋愛放浪―山田順子
- ◆ 人妻との山荘情死事件―有島武郎

展示コーナー 紹介

展覧会特製メニュー「赤い糸」 於・隣接のカフェ「港や」

大正文豪恋愛おみくじ付

はちみつ、しょうが、とうがらし等、催淫効果があるとされるものをミックスし、そこに糸とうがらしを添えた、乙女のための「ホレ薬」です。糸とうがらしが、「運命の赤い糸」をあらわしています。このドリンクを飲んだ方には、きっと「運命の人」との出会いが待っていることでしょう。ご注文のお客様には大正時代の文豪の言葉「恋愛おみくじ」を引いていただきます。(予価500円)



【画像15】赤い糸

弥生美術館 中村 行

「命短し恋せよ乙女～マツオヒロミ×大正恋愛事件簿」展

写真貸出申込書

写真送付日 月 日 必着

掲載紙／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

図 版	ご希望するデータにチェックしてください
図 1 「ダンス」マツオヒロミ／画 初公開	
図 2 田村俊子写真	
図 3 山田順子写真	
図 4 山田順子のイメージ画 マツオヒロミ／画 初公開	
図 5 夢二が順子の兄にあてた手紙 山田家所蔵	
図 6 お葉写真	
図 7 サロメを演じる松井須磨子の写真 小針侑起氏所蔵	
図 8 須磨子の後追い自殺を報じる朝日新聞記事	
図 9 島村抱月 写真	
図 10 義江との仲が噂になり始めた頃のあき	
図 11 帰国した義江を東京駅に出迎えた長男・義昭とあき	
図 12 義江の遺品・マリア像	
図 13 義江の遺品・スプーン類	
図 14 平塚らいてうの手紙 初公開 NPO 法人平塚らいてうの会 所蔵	
図 15 赤い糸 (展覧会特製メニュー)	
読者プレゼント用の招待券をご希望される方は枚数をお書きください。(5組 10名様まで)	

【通信欄】

データの貸出について

同封のプレスリリースでご紹介している図版7点について、データを用意しております。
 ご希望の場合は、この申し込み用紙に必要事項をご記入の上、**FAX 03-3812-0699** までお申し込みください。
 美術館写真 (外観)・作家肖像等を必要とされる場合は通信欄にお書きください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券を5組10名様分までご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただいた際には、お手数ですが掲載誌(紙)をお送りくださいますようお願い申し上げます。